

2023年2月19日（大斎節前主日、A年）

牧師メッセージ

「復活を垣間見る」

（マタイによる福音書 17:1-9）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音は、いわゆる「変容」の箇所です。今日の旧約聖書で、雲のなかでモーセに語りかけた神が、弟子たちに語りかけます。雲の中からの声を聞いた弟子たちは恐れに震えました。それは、神の声に対する恐れと同時に、主イエスの受難予告を思い出したからかもしれません。なぜなら、今日の福音の直前の箇所は、主イエスのご自分の受難と復活について弟子たちに話しをする場面だからです。主イエスの受難と復活の予告を聞いた弟子たちは、主イエスの「死」という恐るべき場面しか想像できませんでした。「復活」などには思い及ばなかったのです。しかし、主イエスが知ってほしいのは「復活」なのです。なぜなら、主イエスが「死んで復活する」ことに、人間を愛する神の思いが明らかにされるからです。だからこそ、主イエスはここで、恐れ、うずくまる弟子たちに「近づき」、「起きなさい」と語りかけます。

近い将来主イエスの死を目の当たりにし、恐怖のうちにうずくまる弟子たちは、ご復活の主イエスによって起こされることになります。であれば、今日の福音で弟子たちは山の上で主イエスによって起こされることで、主イエスの死と復活によって「起こされる」ということを先取りで経験した、ということになります。さらにこの場面のように、主イエスから弟子たちに近づくというのは、ご復活の主イエスが弟子たちに近づき（28:18）「世の終わりまで、あなたがたと共にいる。」と約束し弟子たちを派遣する場面だけで、他にはありません。つまり今日の福音で、山の上で恐怖にうずくまる弟子たちに近づき、起こした主イエスは、これから山を下りて宣教という日常へと戻っていく弟子たちに、ご復活の栄光を垣間見せることで励ましたのです。

「死」だけしか見えない弟子たちに、山の上で主イエスは復活を垣間見せ、送り出します。山の上で主の栄光を目の当たりにしたからこそ、弟子たちはこれからの苦難を担うことができます。間もなく大斎節に入ろうとしているわたしたちも、かすかに垣間見える復活の栄光を仰ぎ見ながら、これからの大斎節を歩んでまいりましょう。